

## はたちを迎えた産学協創推進本部

本年4月、東京大学産学協創推進本部はその前身となる産学連携本部の発足から20年目を迎えました。20年間、産学連携本部そして産学協創推進本部は、本学から絶え間なく生まれる知の社会実装を進めるための歩みを続け、様々な取り組みを行ってまいりました。その間の活動によって、数多くの社会実装を実現してきたところです。

研究の成果を社会実装というかたちで社会へ還元することは、大学の重要な使命のひとつです。東京大学憲章には、研究成果を積極的に社会に還元しつつ、同時に社会の要請に応える研究活動を創造し、大学と社会の双方向的な連携を推進することが謳われています。また、東京大学知的財産ポリシーにおいても、学内の研究活動によって得られた知的創作の成果は、遅滞なく社会に還元し活用されるべきことや、知的財産の普及を促進して社会に貢献し、結果として得られる技術移転収入を新たな研究開発に投入するエコシステムの構築が記されています。

2021年、本学はこれから進むべき方向を内外と共有し、そ

の歩みを進めるために「UTokyo Compass」を策定し、そのなかに「大学の無形資産としての知的財産の開示の方法を検討する」という行動計画を盛り込みました。これを受けて、産学協創推進本部は2022年度から知的財産報告書を発行しています。3年目となる今年度の報告書は、これまでの報告書に対していただいたご意見を踏まえて、掲載するデータの見直しや、事例の検討を進めました。

また、今年度の報告書には、染谷新本部長へのインタビューや、本学における知財に関する様々な取り組みの紹介、外国人研究者や学生による発明届の状況、昨年創立25周年を迎えた株式会社東京大学TLO（以降、「東大TLO」）の活動紹介、本学のロゴマーク変更など、様々なトピックを盛り込んでいます。

はたちになった産学協創推進本部は、本年4月に就任した染谷新本部長のもと、東大知財の社会実装をさらに推進するために、新たな気持ちで業務に取り組んでまいります。本報告書を通じて、東大知財に関する取り組みを身近に感じていただけますと幸いです。

